

知恵の経営報告書

2 0 1 3



株式会社 織彦

602-5241

京都市上京区堀川通中立売上る役人町260-303

TEL. 075-451-0470

Email orihiko@nifty.com

ホームページ <http://www.kimono-kyoto.biz/>

目次

I. はじめに.....	3
II. 会社概要.....	4
III. 沿革.....	5
IV. 理念・方針.....	8
V. 事業・商品など.....	1 1
VI. 商品・加工が支持されている理由.....	1 3
VII. 商品・加工へのこだわり.....	1 4
VIII. 業務の流れ.....	1 7
IX. 蓄積された当社の知恵・技術・ノウハウ.....	2 1
X. 「知恵の経営」の今後の展開.....	2 4
XI. 「知恵の経営」とは.....	2 5



(絵緯棚＝配色用の絵緯糸を整理保管する棚です。)

I. はじめに

京都の代表的な伝統産業・西陣織や京友禅において、需要の停滞や後継者問題など取り巻く環境は厳しく、これらの諸問題に加えてモラルを逸脱した販売手法がとられ着物や帯に対する消費者の信頼を失いつつあります。

当社は、京都西陣にて明治40年から、多くの関連加工業者・職人・従業員の皆さんと家族と共に製造に携わり、継承してきた生産・加工の技術で1点1点原材料を吟味して大切に物創りをしてきました。しかしながら、注いだ職人の皆さんの心意気も含めて小売段階では何も伝わっていない現状がありました。そのため直接、消費者に商品解説や販売が出来るように努め、当社が永年蓄積してきました物創りの知恵を活かしながら、京友禅染めの着物や和風インテリアの制作やきものクリニックまで対応して事業を展開してきました。

取り扱っています商品について生産・加工の工程や技術・原材料・産地等の情報を加工台帳（カルテ）として整備・活用することで、着物や帯への信頼の回復に努め、お客様からのご質問やご要望に適切にお答えできる環境を整えてきました。

技術・品質の向上、職人さんや加工に携わった皆さんの仕事の活性化、匠の技の保存・伝承など、当社の保有する知恵の見える化と今後の事業の進め方を報告書としてまとめました。責任のもてる世界に通じる『物創り』を目指し、安心と信頼を大切に優れた品を提供して社会に貢献しつつ、加工ネットワーク事業所の皆さんと共通意識を持ってさらなる知恵を生み出し、事業の発展成長を目指すマネジメントツールとして本書を活用して頂ければ幸いです。

平成25年 1月 8日

代表取締役 樋口 恒樹



Ⅱ. 会社概要

【会 社 名】 株式会社 織 彦

【創 業】 明治40年

【会 社 設 立】 昭和26年5月

【代 表 者】 代表取締役 樋口 恒樹

【連 携 企 業】 (株)京染せい山・(株)枅儀・(株)京都キモノ・サービス

野崎織匠(株)・西尾産業・呉光オートクリン(株)・(有)土本

(全社京都市内)

【資 本 金】 10,000千円

【事 業 内 容】 西陣織物製造卸・呉服販売・和雑貨インテリア販売・悉皆

悉皆とは、呉服全般にわたって、直し補修などあらゆる注文に対応する業務をさします。従来悉皆専門店として京誂染店や京洗店などがありましたが、減少したため、呉服販売の一部の業務として行っています。

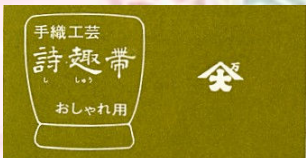
【本 社 所 在 地】 京都府京都市右京区宇多野法安寺町12番地の6

【営業所所在地】 京都府京都市上京区堀川通中立売上る役人町260—303

【W e b サ イ ト】 <http://www.kimono-kyoto.biz/>

Ⅲ. 沿革

【西陣の織屋として創業・基礎を築いた時代】（明治40年～昭和18年）

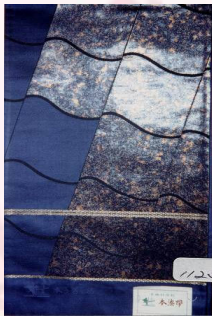
年	沿 革
明治40年	樋口萬次郎(現代表者の祖父)が、奉公先の梶田機業店から暖簾分けを許され独立、京都市上京区で西陣織物製造業を創業
	西陣織物同業組合に参加、新八寸帯の開発をする。
昭和13年	西陣織物工業組合設立参加 この時の組合員番号「27」は、今も継続して使用している。 西陣織工業組合の工芸織部会の手織グループに属しています。商品に右写真の証紙を貼付し出荷します。廃業した機業は欠番となり同じ番号は使用されませんので、現在は2500番台になっています。 当社の帯には「27番」記載の証紙が貼付されており、組合創立以来の組合員であることが証明されています。
簾の屋号は、本家の屋号「山大」の右上に萬次郎の万をつけたもので、創業当時の思いを受け継ぐため、今も札紙や取扱注意書などに使用しています。  屋号  札紙  社内での糸繰   手織工芸 詩趣帯 礼装用 詩 趣 帯 お取扱いのお願い ◆疵裏分を食んだものに触れると落などが変色することがありますのでご注意ください。(例)ゴム製品 ◆高熱アイロン及び蒸気アイロンは生地を縮めますので使用しないで下さい。 ◆保存中、ビニール袋、香水は使用しないで下さい。 汗、しめりは変色の原因になります。 ◆時々虫干をして下さい。 京・西陣織元治製 証紙№27  取扱説明書 創業当時から正月には機屋(織機)にしめ飾りをして、星付小餅をお供えしています。 織物を大切に作る精神を今も受け継いでいます。	

【企業として業務拡大の時代】（昭和22年～昭和48年）

昭和26年 9月	京都市北区に手織工場を建設、緞子裏なごや帯の製織開始
昭和29年 8月	五越絹なごや帯（夏の帯）の開発をする。
昭和40年10月	創業者樋口萬次郎永眠、樋口恒次郎が代表取締役役に就任 フルエ装置を利用した「ぬれ緯紗」の夏用袋帯を開発する。
昭和42年 9月	手織本真綿糸使用のおしゃれ帯『 大江山紬 』製造を開始する。
西陣織の帯地製造卸業としての企業を確立し営みながら、一部で消費者販売の基礎を築き、生糸価格相場の変動が事業転換の継起となりました。	
 	
展示会会場風景	

【卸売業から小売業へ事業を転換した時代】（昭和43年～現在）

昭和51年 5月	樋口恒樹が、二代目実父の恒次郎から小売業への拡大転換を託されて、代表取締役役に就任
昭和53年 5月	販路を京都市周辺から、大阪、神戸、今治、飯塚などに拡大、和装小物の販売を開始する。
同年 10月	従業員（織師）岩崎理助が、フルエを使った「ぬれ緯（ぬき）紗」の技術により、伝統工芸士に認定される。
同年 11月	出願商標「 織彦 」の名称が特許庁にて登録される。

昭和59年 3月	出願商標「手織マーク」特許庁にて登録される。 
平成元年 9月	従業員(織師)岩崎理助が、京都府伝統産業優秀技術者として表彰され「京の名工」に選ばれる。
平成 2年10月	「京の名工展」に、ぬれ緯紗の几帳を制作して出展する。 これを機に、有職故実からリメイクの研究を開始する。
平成8年 4月	西陣織大会で、当社袋帯が大会特別賞ファッション賞を受賞する。  手織引き箔の技術で織った錦地の袋帯
平成19年 5月	京都府中小企業団体中央会の京都ブランド・新分野開拓事業に 「トレーサビリティ導入プロジェクト事業」の認定を受ける。
平成22年 2月	経済産業省・中小企業IT経営力大賞審査委員会より、生産加工 管理システムが評価を受け、2010年IT経営実践企業に認定 される。 

IV. 理念・方針

当社では、「I. はじめに」でも記述しましたように、消費者に深い信頼を寄せさせるような価格設定や販売方法、及び継承してきました生産・加工の技術で1点1点原材料を吟味した大切な物創りを続けてきました。これらの考えを経営理念・経営方針・行動指針として明文化しています。

1. 経営理念

責任もてる世界に通じる『物創り』を目指し、安心と信頼を大切に優れた品を提供して、社会に貢献します。

2. 経営方針

『よりお着物を、身近にお届けするために……』をスローガンに経営理念を3つの方針として展開しています。

1. 会社をめぐるすべての人とのご縁を大切にします。
2. 古典に統一したデザインを大切にします。
3. 本物の品を適正な価格で提供します。

【経営方針の三つの柱】

ご縁を大切に

当社の物作りによって生まれたユーザーの皆さんとのご縁を大切に、末永く想いをつなげて頂けるよう、その信頼に答えて全ての事業を行います。

統一したデザイン

常にお客様の気持ちになって、古典柄にデザインを統一した物作り品揃えをすることで、末永く愛用頂ける品やサービスを提供します。

本物を適正な価格で

お客様に商品情報（品質・価格など）や加工の技術情報等を、分かりやすく適切に公開し、本物を適正な価格で提供します。



西陣織物館に所蔵の貼り交屏風です。右の朱色つゆ芝模様は、当社初代の作品です。左の朱色秋草模様は、当社2代目の作品です。古典柄を継承して物創りをしています。

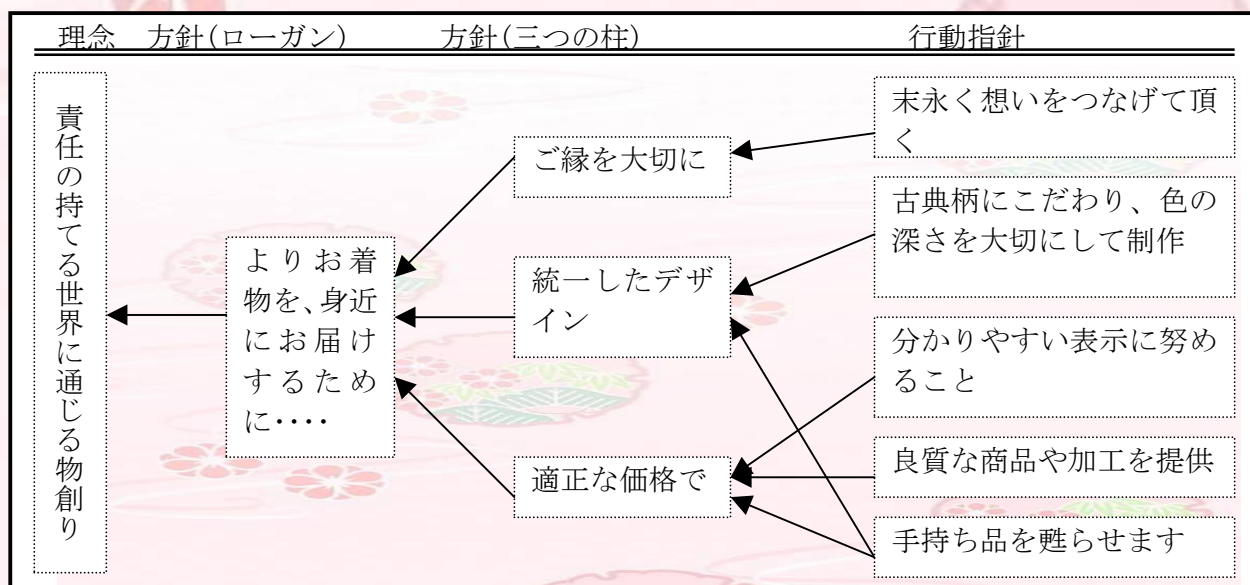
3. 経営の行動指針

経営方針を、次の5つの経営指針で展開します。

- ①末永く想いをつなげて頂く-----ご縁を大切に
当社は、物創りに携わった職人さんの心いきを、お届けした品に末永く想いをつなげて頂けるよう、ご縁を大切にします。
- ②伝統の図柄（デザイン） 古典柄にこだわり、
色の深さを大切にして制作します-----統一したデザイン
伝統の図柄（デザイン） 古典柄にこだわり、色の深さを大切にして制作に努めます。
どの時代の、どの様なデザインに原点があるのか、お客様に説明し納得頂ける商品構成を行います。それは、蓄積した図案から製織する西陣の袋帯から、京友禅の着物や和装小物など仕入商品に対しても同じコンセプト持って品揃えをします。
本当によい品はいつも変ることのない伝統の美しさの仲にあり、創業以来代々受け継いできた織彦の色（知恵）で表現します。
- ③分かりやすい表示に努めます-----適正な価格
価格の透明性と品質素材の適切な表示を行い、着物や帯への安心と信頼に応えます。
- ④良質な商品や加工を提供します-----適正な価格
お客様の立場に立って品質管理を行い、常に本物の良質な商品や加工が、適正な価格で提供出来る見積を提示します。
- ⑤手持ち品を甦らせます-----統一したデザイン・適正な価格
日ごろの制作技術を活かして、アフターケア（修理）やリメイク（創り変え）にも力を注ぎます。消費者の手持ち品を新たな品物として甦らせ、その物への思い出や気持ちを次世代に伝え、家族や社会の絆や憩を大切にします。

4. 関連図

方針(3つの柱)及び行動指針は経営理念及び方針(スローガン)をもとに、下図の様に展開しています。



5. 従業員と家族の支え

これらの経営理念・経営方針・行動指針を実現するため重要なことは、従業員と代表者の家族の支えがいかにあるかです。物創りのアイデアや、品揃えなどにも、消費者の立場にたった意見や提案の出来る同じ輪の中にいる環境があり、又、お客様の中には従業員の知り合いや家族の知り合いが含まれ、それらのお客様からの広がり最も信頼を頂ける口コミとなります。

中小企業においては、従業員とその家族そして当社の代表者の家族の輪の支えがあって、経営理念・経営方針・行動指針が実現できます。



V. 事業・商品など

1. 事業・商品の紹介

(1) 西陣手織帯の製造・販売（西陣織証紙番号27番の信用力）

当社が製造する以下の帯には、**第Ⅲ章(5ページ)**の証紙を添付して出荷します。
その証紙に印字された組合員番号27番が、商品への信用力を高めています。

- ① **夏袋帯・フルエ装置を使用した手織ぬれ緯(ぬき)紗の技術を用いた袋帯**は売上高が高く、特異性の強い商品群です。

横糸を水に浸しして織り上げる「ぬれ緯(ぬき)」の技術は能衣装や武士・公家の衣装に用いられてきましたが、この技術を継承している織屋の数は西陣の織屋が現在800社程といわれている中で、十数社でしか織られていません。

紗の帯は季節商品として捉えられていましたが、気候が変わり盛夏のみでなく5月中旬から10月上旬まで利用されるようになり需要が拡大したにも拘わらず、生産者が減少し適品不足になっています。又、海外での着物着用機会が増え、この際にも当社の夏帯は軽くて楽であると好評で需要が増えています。

- ② **錦地袋帯・手織引き箔の技術を用いた袋帯**

売上高が高く、特異性は弱い商品群です。

西陣で一番多く生産されている商品群で取扱商社も多く、売上高は高い品です。その中で、本うるしの引き箔と、細い糸を使った手薄い生地で、特異性を出していますが、同様の機械織が存在して卸段階で品質を重視するより、価格重視の傾向が強く卸での特異性を出すことが難しいですが、小売段階では消費者の手薄く軽い帯の要望が強く、その特異性を発揮することが出来、売上に繋がっています。

- ③ **紬八寸帯・手織真綿糸を使用したおしゃれ八寸帯**

売上高は低いですが、特異性が強い商品群です。

八寸帯は、おしゃれ用限定になり、大島紬や他の紬の着物に合わせる帯のため需要が限定的で売上は低くなります。その中で当社は、本真綿糸を原料として特異性を強く発揮しています。この本真綿糸は、織る際に糸の扱いが難しく量産できない欠点があります。しかし、一般の紬糸に比べて軽く織上る特徴があり、旅館の女将など長時間帯を締めている人には、この種の帯が好まれます。

(2) 京友禅染めの着物・西陣織の帯・和装小物の販売

- ① 京友禅染め

自社の物作りのコンセプトである古典柄にまとめ、京友禅を扱う問屋を通じて、色使い(配色)を指定し厳選した品揃えを行っています。

顧客は、当社製織の帯と友禅染めの着物を無理なくコーディネートすることが出来、まとまりのあるものとして継続購入することが可能で当社の強みです。

- ② 西陣織の帯

自社製織の帯だけでは、巾の広い柄揃えが出来ませんので、友禅染めの着物と同様に、コンセプトに合った帯の品揃えを行っています。

顧客は、織彦のコンセプトでまとまった品から好みの品を選ぶので、無理なく良い品を選ぶことが出来ると顧客から評価されています。

③ 和装小物

- ・ 帯や帯揚げを中心とした小物
- ・ 和装用肌着類・着付け用小物・足袋などの小物
- ・ 子供和装品 主にお宮参りや七五三用品
- ・ 草履バッグ類・・・等々

当社で色柄を着物や帯に併せてコーディネートしています。成人式などでは、コーディネートしたお客様が、新聞社などから取材される対象になりいい評価を得ています。

(3) 和雑貨・インテリアなど販売と加工受注

① 和雑貨

- ・ お祝い用品（帛久紗・風呂敷）
- ・ 名刺入れ・金封入れ
- ・ 巾着・懐紙入れ等の和雑貨など

仕立際の残り裂で作る巾着と懐紙入れは、お茶会など着物でお出掛けの時に同時使用されます。



巾着と懐紙入れ

② インテリア

- ・ 几帳・屏風・衝立・額
- ・ テーブルランナー・座布団・・・等々

お客様手持の着物や帯からオーダー制作しています。完成品の実物大型紙などを準備して、きめ細かな注文を受けています。

オーダーの有職几帳の制作が出来るのは、京都において数社しかなく、他社では詠えることが難しく当社の強みです。



袋帯から汚れや傷みがない所を使って屏風を作りました。

VI. 商品・加工が支持されている理由

前第Ⅴ章で紹介しました当社の商品や加工に対して、どのようにお客様から支持されているのか、その理由を一般小売店と比較しています。

1. 商品が支持されている理由

	一般小売店	織 彦			
		西陣手織帯 (製造)	西陣手織帯 (販売)	京友禅の着物 西陣織の帯	和装小物 インテリア
デザイン	委託販売が (※1) 主流。売手の都合で古典柄とモダン柄が混在し統一性がない。	手織メーカは古典柄が得意である。	デザインのモチーフがはっきりとしている。 古典をコンセプトに統一したデザインを採用しているので、飽きのこない帯である。	良質の古典柄は価格が高く、見かけることが少なくなった。 古典で統一された良質な帯や着物なので、合わせやすい。	帯や着物のデザインから、しっかりとした物創りで信頼できる。
技術	販売員は技術の事は何も分らない事が多い。	信頼出来る技術を持っている。	手織の帯は、機械織に比べて軽くて締め易い。 不要なしわがよらない。	製造元が厳選しているので、品質や技法に安心して品選びが出来る。	きめ細かい加工説明を受け納めできる。 装束衣装の技術を保持している。
素材	価格重視で品質管理が出来ていない。外国産が表示されない。	長く続いている織屋なので、生糸等の原材料の品質が信頼出来る。	メーカーとして知識が豊富で、素材品質は信頼できる。	メーカーなので取扱品の素材は安心でき、品質素材を気にする事なく好きな柄を選べる。	素材や加工技術を知り尽くしているので商品が信頼でき、又、安心して別注の依頼が出来る。
品揃え	委託販売が主流なので品揃えに統一感がなく数量が多く特徴がない。	手織マーク（商標）が織込んであり他社と差別出来る。	古典柄で統一した品揃えなので着物に合わせやすい。	織彦のコンセプトでコーディネートされているので、選びやすい。 以前に買った品にも違和感なく合わせることが出来る。	コーディネートされた品揃えで、厳選されて選びやすい。 装束衣装の付属品を調達している。

※1 委託販売とは、問屋が商品リスクを全て負担して展示会や店頭で販売する方法です。

VII. 商品・加工へのこだわり

当社の商品や加工(第Ⅴ章 1 節)がお客様から認められ支持されている理由を第Ⅵ章で記述しました。

その為に、第Ⅳ章で記述しました理念・方針と行動指針に添って、商品・加工に下記の様なこだわりをもって、事業の推進をしています。

項目 分野	古典柄	生地 の風合	技術	デザ イン	新規性	利便性	希少性	安心 信頼	品揃え
西陣手織帯 の製造	◎	◎	◎	◎			◎		◎
京友禅染め の着物 仕入西陣織 の帯	◎	◎	◎	◎			○		◎
裏地類		◎						○	
和装小物 一般品	◎		◎	◎		○			○
和雑貨 別注品			◎	◎	○		○		
インテリア など			◎	◎	◎	◎	○		
クリニック			◎			◎		◎	

(こだわりの度合い ◎は必ず ○は時と場合による)

1. 古典柄

古典柄は目立たない部分まで手を抜くことが出来ないモチーフで、原価が高くつき易い商品です。しかもその技術の評価出来る流通業者は少なく、むしろ見かけがよいが原価の安いモダン柄や古典柄を真似た、簡略化したデザインの商品で利益を確保しようとする流通業者が多い傾向にあります。

ここに他社が積極的に古典柄を手掛けられない理由があります。その為、古典にこだわりをもった当社の商品は、手を抜くことがない緻密な加工が施されていると、消費者から評価されています。

古典へのこだわりが、いつ見ても飽きのこない商品と支持され、お客様と永くお付き合い出来る源泉になっています。



お茶道具
(仕覆・裂地より)



江戸時代・能衣装より

当社の昭和40年代作成の図案集

2. 生地 of 風合い

帯は手薄く軽くこしのある生地が締め易く、又しわになり難い品が最良品として好まれます。着物は、生地に重みがあり、しなやかな白生地を使用したものが好まれます。白生地の織出しに、必ず産地の印と、重さが記載されています。後は、用途により地紋入りや、一越地など選びます。

3. 技術

西陣の手織袋帯を製造していますが、その技術の内容は、**第IX章(1)節【技術ノウハウ】**で詳しく説明しています。そのノウハウを活かして友禅の着物や西陣の帯の仕入を行い、和装小物をそろえています。クリニックの加工にも応用しています。さらに和雑貨やインテリアのリメイクにもその技術を応用しています。

4. デザイン

手織帯の制作で継承してきた古典をコンセプトに統一したデザインを採用して、飽きのこない良質な帯や着物を提供します。又、これらのデザインから、当社の物創りの姿勢をアピールすることにより、信頼出来る企業を目指します。

5. 新規性

特にインテリアの分野は競合品が多数存在することから、有職故実などのオリジナル性の高い商品を開発します。又、着物や帯の素材の良さ、和のデザインの良さを追求しながら、新しい和風インテリアを作ります。

6. 利便性

上記の開発と併せてその利便性も追求します。小売業として京友禅の取扱を始めた、昭和48年頃から加工先と研鑽してきた防水汚れ止め加工技術を活かして利便性を高めます。

7. 希少性

手織帯のぬれ緯の技術を用いているのは、西陣で数社しかありません。帯の制作では、その技術の継承と啓蒙をしながら、他の分野での応用や、その技術の知識を活かした物創りと品揃えをします。

8. 安心・信頼

裏地は、価格を重視するあまり生地品質を落とす業者があります。その裏地が表地をどのように添うのか、出来上がりの着心地に影響します。それを顧客から信頼され任されている事を自覚して準備します。

特にクリニックでは、顧客手持ち品を預かり加工しますので、加工の出来上がりに失敗は許されません。素材を知り尽くしているという安心感で受注します。

9. 品揃え

ただ数量を多く見せればよいではありません。お客様が欲しいと思われる品を如何に揃える力があるかです。呉服の小売チェーン店や、一般の展示会では、ブランド傾向の品揃え(人間国宝の作品、有名メーカーの広告にたよる、商品に添付ラベルの誇大なもの等)が中心で、数量が多いですがそこから欲しい品を見つけるのに疲れ、結局販売員の言われるままに選択してしまう傾向になりがちです。他方、従来の呉服店では、商品を問屋から委託で揃えることが多く、顧客の要望に十分に答えられず、顧客がこの中から選ぶのかと疑問を持っておられます。

当社は、コンセプトを統一、十分時間を費やし吟味して品揃えしていますので、お客様から適品数量で見やすく選びやすいと評価を得ています。

VIII. 業務の流れ

1. 業務の流れ

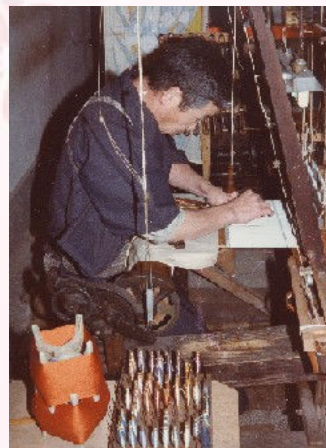
(1) 西陣手織帯の製造

西陣の織元として、手織帯の織物設計・デザイン企画などから、原材料の準備・製織指示・最終仕上・検品を自社内で行います。

製造の準備工程は、綜統・図案・糸染・紋型紙・経糸巻き上げ・横糸の糸繰・金糸や漆の箔など原材料の制作など準備工程を外注先にて分業形態で行います。

【製織】

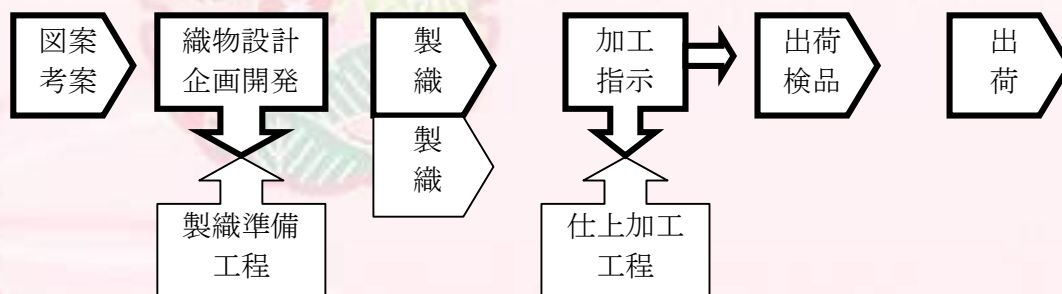
製織は外注工場（出機）と自社工場（内機）で、全て京都市内で織っています。内機は、社員従業員（織師）岩崎理助です。又、出機の職人さんは外注契約ですが、織物の心臓部（綜統）を当社より貸与、専属契約で製織していますので、他社の製品は織ることはありません。



【出荷検品】

全ての作業を終えた帯を、社内で最終検品します。汚れや傷がないか、製造基準に合っているか（寸法）など検品した上で、合格の帯に「西陣織 27番」証紙を添付して出荷します。

伝統工芸士織職人 岩崎理助



(2) 京友禅染めの着物・西陣織帯・和装小物の販売

京友禅と西陣織帯や裏地類・和装小物の販売をしています。これらは、当社が永年西陣織を製造してきたデザインの感性、あくまで古典にこだわりを持った統一したデザインに基づく感性でこだわりを持って品揃えを行っています。独自に着物や帯と和装小物をトータルにコーディネートしています。

この分野の主な取扱商品(和服)

- ◆留袖・色留袖・訪問着・付下・色無地 など礼装用のお着物
- ◆大島紬・江戸小紋・紬着尺 などおしゃれ用お着物
- ◆袋帯・なごや帯・紬帯・ぬれ緯紗 など帯全般
- ◆道行コート・羽織・雨コート・長襦袢 など和装製品全般
- ◆帯バ・帯揚げ・伊達衿・草履バッグ など和装小物

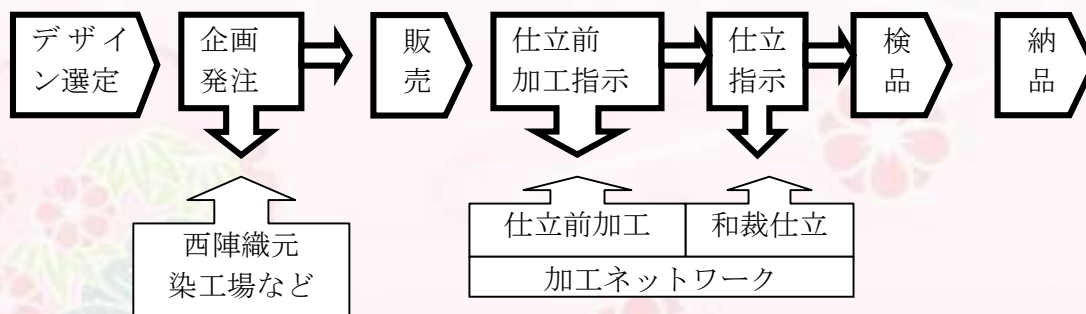
【手描友禅染めの工程】

染工場 元染卸問屋から預かった白生地に、墨打ち・下絵・糸目・糊伏せ・引き染・彩色・刺繍・金彩・蒸水洗などの分業形態の加工工程を統括します。

元染卸問屋 白生地準備・図案考案・最終検査 などを行います。

当社の京友禅着物の主力・手描友禅は、当社のコンセプトにあった品揃えをします。

着物や帯の販売



和装小物・裏地類の販売



(3) 和雑貨・インテリアなど販売と加工受注

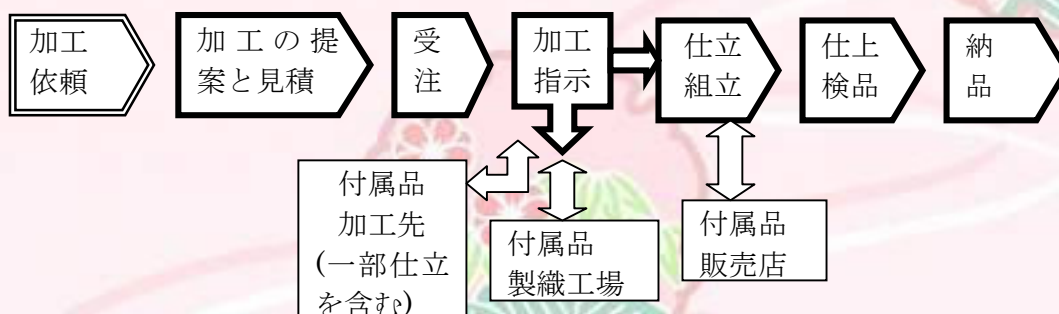
和風のインテリア（几帳・額装など）を加工製造しています。

特に几帳（平安時代から伝わる宮殿などで使用される帳）は、現在では殆んど他社では作る事のできない品となっています。几帳の付属品は飾り紐やぼかしの細帯（布筋）など装束衣装に使用するものが多く、職人が分業で制作します。その付属品の最終仕上を当社にて行い、1つの几帳が出来上がります。分業形態の付属品を揃えること、及び最終仕上工程のノウハウが無いので、新たに参入は難しい分野です。



京都のお茶屋さんに納めた几帳

几帳の加工



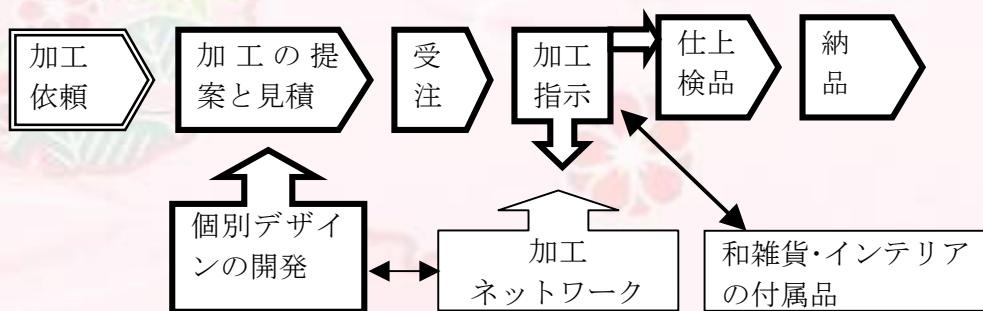
和雑貨・インテリアの制作では、学会記念品・卒業記念品・メモリアルグッズなど、和風・日本文化の継承・家族の絆などをコンセプトとして提案しています。

ロゴマークや名称など織り込みや、新しい形状を作るなど加工ネットワークの強みを發揮して受注加工を行います。見本制作や型紙を作り直接顧客に提案します。

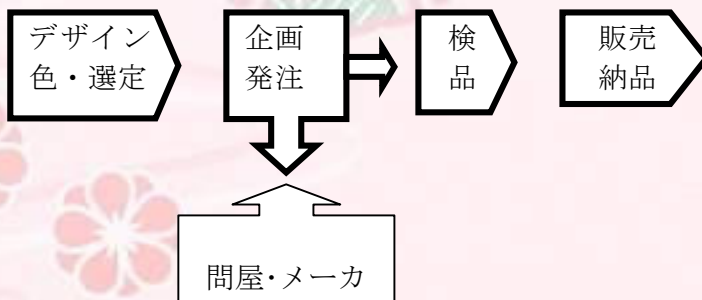


帯地から制作した 六曲屏風

和雑貨・インテリアの加工



和雑貨・インテリアの販売



主な取扱商品(和雑貨・インテリア)

- ◆ 帛久紗・風呂敷・漆器類(広蓋)
- ◆ 名刺入れ・テーブルセンター
- ◆ 几帳・屏風・スクリーン
- ◆ お手持の着物や帯から和雑貨やインテリアの制作

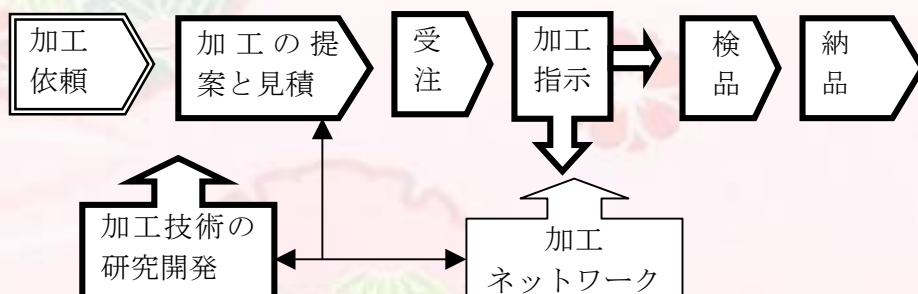
(4) クリニックとして加工受注

消費者から自分の着物を娘に着せたい、クリーニング店では思うように綺麗にならないなど、直しの相談が増えました。そこで、新しいものを創る技術を活かした「きものクリニック（洗い張り・浸み落とし・補修）」として、着物や帯の手入れを行ってきました。お客様からアフターフォローの要望に応じて始めた事業です。

一方で顧客手持ち品の補修依頼、例えば着物の寸法を長くして欲しいという注文に、着物を解くと模様が欠けていて長く出来ない場合がありますが、枝や花などの模様を追加して寸法を長くすることが可能で、落ちない汚れなどは金箔や刺繍で補正します。これらは、新たに加工を施す技術を持っている事と、生地素材知識がなければ対応することが出来ません。

加工ネットワークの職人は、厚生労働大臣認定国家技能検定の染色補正グランプリ 1 級を持っています。染色補正とは、染料違い、汚れ、など染色の際に発生する故障を直す仕事です。この技術で手持ち品の汚れ、色焼け、汗浸みなどを直す加工をします。

クリニックの加工受注



きものクリニックの取扱内容

- ◆ 洗い張り・浸落し・丸洗い
- ◆ 衿直し・掛け継ぎ・補修・紋洗い・入替
- ◆ 別染め・色焼け直し・ぼかし染による焼け直し
- ◆ 金彩加工・刺繍加工・柄補修・柄追加・部分色差し
- ◆ 防水汚止加工・・・など



派手になった着物の地色を、地味な色に染め替えました。

Ⅸ. 蓄積された当社の知恵・技術・ノウハウ

永年蓄積してきました手織の技術やデザイン感性など以下の項目が其々強みとなって、着物や帯の仕入、クリニックやインテリア・和雑貨のリメイク等に事業を拡大する事ができました。

1. 手織帯の技術

(1) 西陣織の帯製造技術

① 緯錦(錦地袋帯)

織組織の一つで、手薄く軽い織物をおるのに適した組織です。特に当社は、この風合いを織物に表現するために、この「緯錦」の技術を冬の帯に使っています。この組織に箔を手で引きながら織り込む、引き箔の技術を合わせて、手薄く軽くこしのある生地(風合い)の袋帯の技術を継承しています。

【技術ノウハウ】

糸使い＝経糸(たていと)に、最も細い生糸(21中)の3本撚り、又は2本撚りを使用しています。その糸を帯の巾にして約2,400本を使用しています。織物は同じ巾ではより細い色を多く合わせる方が、太い糸で合わす場合で、計算上では、同じ太さになっても、細い方が、手薄く軽くてしまった地風(風合い)になります。

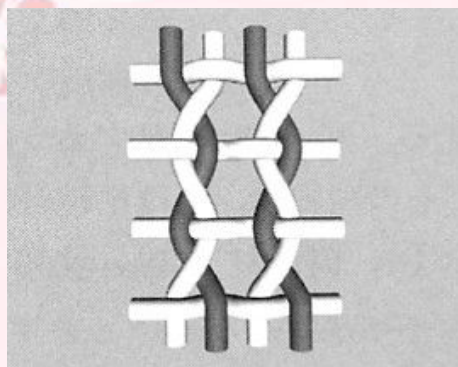
引き箔・漆箔＝金箔を貼ったり、漆で色彩を施した和紙を、帯の巾以上の約1mm位に裁断したものを、手で引きながら織り込む技術を引き箔と言います。帯の上に直接貼る又は彩色するのではなく織り込むので、縦糸に包まれ金箔や漆の色合いが複雑に仕上がります。

② むれ緯(ぬき)紗(夏袋帯)

横糸を水に浸して織り上げる手織の技術で、決めの細かい紗の目を作るのに用いられる技術です。古くから、能の衣装の薄物や、袴などに使われています。

【技術ノウハウ】

「振り織」(もじりおり)という経糸を交互に振じらせて織る技術で、紗の透けた織物が出来上がります。この技術は正倉院の宝物の中にある古代織物にも利用されています。とくに横糸を水に浸して織り上げる「むれ緯(ぬき)」の技法を、「振り織」の技術の中に使用した当社の紗袋帯は、他社では真似る事のできない希少な品となっています。この織技術により、従業員(織師)岩崎理助が伝統工芸士に認定されました。リメイクでの新しい透けた生地の開発に活かします。



【織物組織図】

フルエという装置を使って、経糸が横糸と交さる度によじれ紗の目を作ります。

実際は、経糸・横糸とも数本を合わせて織ります。

むれ緯の場合は、横糸を水に浸します。

③ 紬の帯(紬八寸帯)

紬は、糸を手で紡ぐことから、紬と言われています。そのため糸の太さが均一ではなく節ができやすく、織るときにも糸の性質を理解しないと扱えません。糸の太さが均一でないので織る強さを変えながら手で織っていきます。クリニックやリメイクの商品は紬の素材が比較的多くあり、知識を活かします。

(2) 帯の製造の為に蓄積したデザイン

帯の制作図案は、デザイナーと綿密は打ち合わせをし、実物大に着色して保存しています。常に「古典柄」にこだわりを持ったコンセプトで蓄積しています。

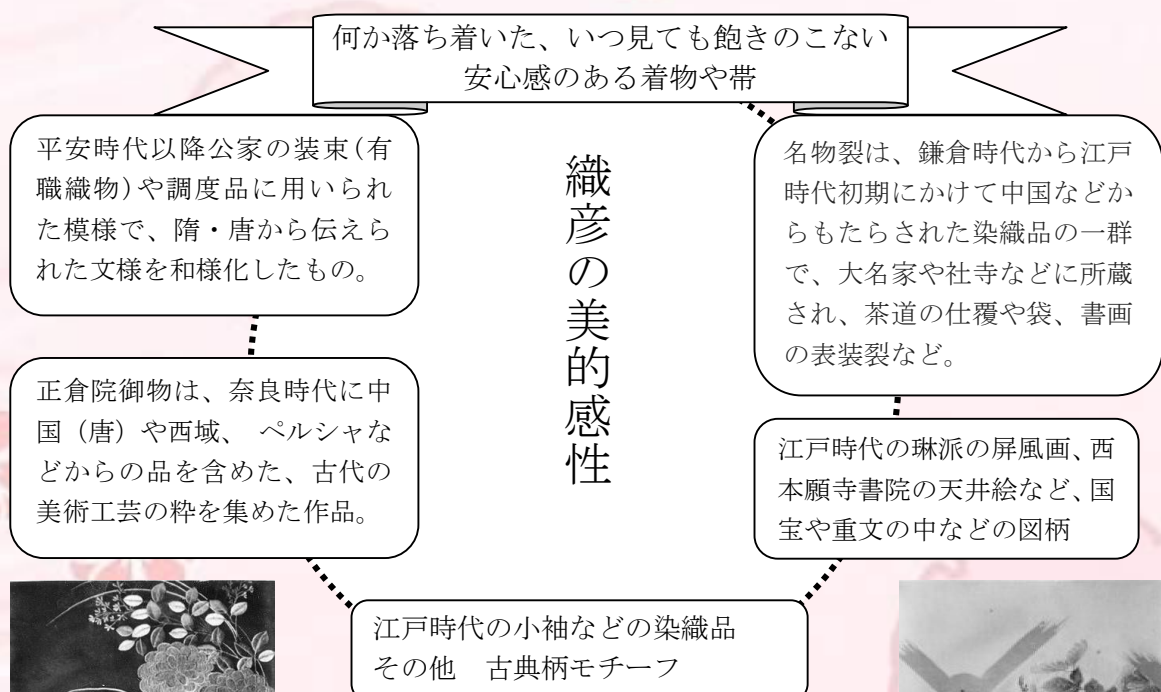
それは、一時的な流行を追うものではなく、永年日本人の心に残っているデザインを再現で、国宝の襖絵や天井絵、江戸時代の小袖や能衣装などに共通する図柄です。この図案を戦後に作成したものを中心に保存、又、購入した美術出版された図柄集（参考本）と併せて、新しいものを創るデザインの知恵となっています。

2. デザイン感性のノウハウ

帯制作に蓄積したデザインの飽きのこない古典柄は、正倉院の御物に描かれた文様や、江戸時代の琳派の屏風画、西本願寺書院の天井絵など、国宝や重文の中などの図柄に原本があります。又、茶道具の裂類(茶袋など)に用いられた名物裂や有職織物など、これらの古典柄を着物や帯の中に再現するには、ごまかしの効かない、ち密なデザイン能力を必要とし、直ぐに模倣することは困難であり、永年培ってきた当社の美的感性であり知恵となっています。

当社の美的感性・デザイン力で新しいもの創りを、繊細な染織の技術が要求される古典の再現によって行います。

消費者が、当社の古典柄を見て、「何か落ち着いた、いつ見ても飽きのこない、安心感のある着物や帯」と言われる所以で、当社商品の希少性があります。



尾形光琳屏風図より



西本願寺書院天井絵より

3. 和風インテリアの制作ノウハウ(有職故実)

和風インテリアのスクリーンとして受注しています几帳は、平安時代の源氏物語巻絵にも画かれている帳（とぼり）等の有職故実から、サイズを小さくして現代の居間に使用出来る様にしました。

几帳の制作は、もともとは装束衣装や能衣装を取り扱う装束店や神具装飾品店で取り扱われていました。当社はこの加工先に依頼して制作していましたが、その店の縮小に伴い当社に伝授され、和裁仕立社員がその技術を習得しました。

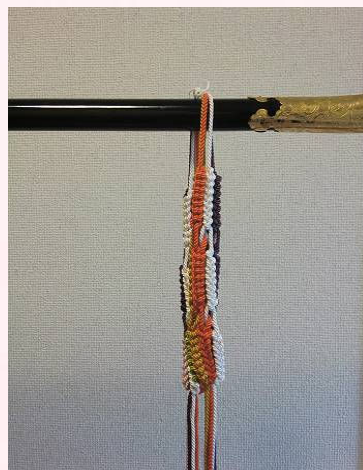
必要な部品（ぼかしの細紐・飾り紐・有職裏地など）を有職専門店から仕入、最後に当社で組立加工（紐を取り付ける特殊作業）をして完成します。

この様に当社の培ってきた、几帳仕立の技法や必要な付属品と組立のノウハウを活かして、インテリアとして新規に受注出来る強みとなっています。



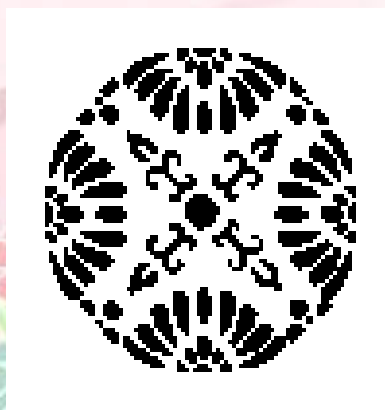
インテリアとしての几帳

装束衣装の付属品



几帳に用いる有職模様

平安時代以降公家の装束(有職織物)や調度品に用いられた、伝統的な拡張高い模様のことです。隋・唐から伝えられた文様を和様化したもので、日本の文様の基調となっています。



4. クリニックの知恵・技術

クリニックで受注する加工においても、織彦の物作りのコンセプトを活かして作り直します。決して手を抜かず、細部まで製造技術を駆使して補修します。

これらの加工内容は、1点1点異なったものが多く、加工台帳（カルテ）として保存します。他社は、カルテの様な記録を残すなどされていません。

当社の加工台帳（カルテ）に蓄積した加工の知恵は、新しい受注の際の提案資料となり、又見積も可能で、今後の消費者の要望に数値で応える強みとなります。

柄の追加修正技術

かけつぎ技術（糸切れを差し直します）

身丈胴接ぎ技術・金箔特殊加工技術

派手な色を地味にする技術

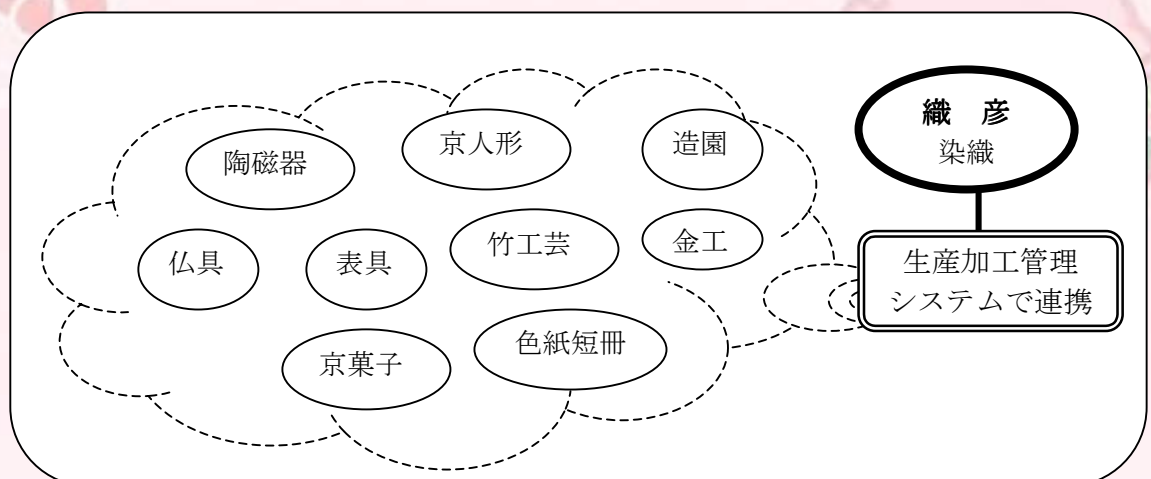


帯のスクリーン

X. 「知恵の経営」の今後の展開

（1）伝統産業全体へ市場の拡大

伝統産業の多くは手仕事で物創りをしています。当社の生産管理システムをこれら業界にも広げ、トレーサビリティを連携して公開します。着物や帯を求められる顧客層は、他の伝統産業の製品も保持されて、その手入れや継承に困っておられる実態があります。当社取扱と同じ様な状況ですので、連携することにより、当社の市場を拡大することが可能となります。他の伝統産業製品への相談・発注の機会を通して、着物や帯への受注につながります。その相互の関係を成立するため、手仕事へシステムの拡大を図ります。



X I. 「知恵の経営」とは

1. 知恵の経営とは

知的資産（知恵）とは、従来財務諸表に記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。したがって、「知恵の経営報告書」（知的資産経営報告書）とは、目に見えにくい経営資源、即ち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係人）に対し、「知恵」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形でわかりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。

経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表され、同20年5月には京都府が「京都府知恵の経営報告書－作成ガイドブック－」を公表しており、本報告書は原則としてこれらに準拠して作成しています。

2. 本書ご利用上の注意

この「知恵の経営報告書」に記載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに付帯する事業見込みなどは、全て現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しています。

そのため、将来にわたり当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性があります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保障するものではないことを、十分にご了承願います。

3. この報告書についてのお問い合わせ先

株式会社 織 彦

代表取締役 樋口 恒樹

住 所 〒616-8206

京都府京都市右京区宇多野法安寺町12番地の6

電 話 075-451-0470

ファックス 075-451-0471

E-mail : orihiko@nifty.com

4. 謝 辞

本報告書の作成に当たり、京都商工会議所 梨木 孝宏 様、同 山田 智仁 様、一般社団法人京都府中小企業診断協会・中小企業診断士 大堀 誠 様のご支援を頂きましたことに感謝いたします。

5. 著 者

株式会社 織 彦

代表取締役 樋口 恒樹